



【目次】

1. 「シナリオ非提示模擬訓練 2」ダイジェスト報告
(2015年3月24日 午前開催分)
2. 「第15回定例会」ダイジェスト報告
(2015年3月24日 午後開催分)
3. 次回 (2015.6.16 火) 開催のご案内
4. 『日帰り南相馬視察ツアー』5月16 (土)
実施予定の案内があります。ご覧ください。
5. 会員募集のご案内 : Face Book の紹介



(京大東京オフィスからの眺望)

【1. シナリオ非提示模擬訓練 Part2 内容ダイジェスト報告】

日 時 : 2015年3月24日 (火) 10:30~12:30

場 所 : 京都大学 東京オフィス

参加者数 : 23名

開催担当者 : 上田悦久 (シーマ・ラボ・ジャパン株式会社)

榎本 茂 (損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント株式会社)

(訓練会内容:広報担当)

- ◇ 前回同様参加者は3グループ (6名ないし7名) に分かれて訓練をスタート。まず、前回の発災から数時間後の、自分達のいる想定会社の状況確認から入ります。と言っても参加者には、事前にその辺の事情等が記載された書類は配付 (メール送付) 済ですので、簡単な確認です。
⇒ 東京 (渋谷) に本社があるスーパーチェーン。都内・近郊合わせて7店舗を展開。従業員約1,500名。本社は免震構造建物。
発災時からの前回の対応で「けが人等への処置は済み、安否確認 (確認率60%程度) 状況他もろもろの、進行中ないし未確認事項等があるが、とりあえず可能な事への当面の対応・処置を行ったところ」からのスタートです。時間的には当日の17時前頃からになります。
- ◇ 参加者の立場は前回同様、対策本部要員です。従って、各人が役割を持って対応することになります。今回は参加者が多く各チームに十分な人数がいたので、役割担当に「遊軍 (担当?)」を置く余裕のあるところもありました。

[開催担当者の訓練概要コメント]

- 今回の訓練は、1月の訓練の続きで、発災後 約6時間経過後から始まりました。初動は一段落したので、災害対策本部として、情報収集、状況把握をして、災害対策基本方針に従って、事業継続の具体的対策を検討、決定、指示をする訓練を実施しました。
- 初回同様に、シナリオ非提示型訓練とし、今回は現実に災害対策本部が直面するであろう、TVやラジオによる情報収集、社内からの報告、支店からの報告などが情報付与として与えられました。情報付与は、映像と音声で与えられ、さらに余震が繰り返すごとにシェイクアウトの実施と、現

実に起こるであろう状況と緊迫感を持って対応する訓練となりました。

- 最後には各チームの対応検討結果をまとめて、チームごとに発表しました。さらには、訓練を通じた中での各種の気づきについて意見交換を実施しました。業界の問題点や、情報収集の困難性に関する提案など、活発な意見交換となりました。

(広報担当)

- ◇ 参加者の皆さんからいただいた「アンケート」でも、参加して良かったという高い評価をいただいております。私も参加させていただきましたが、社内で自分たちでやる場合、何か当たり前の既定の枠の中でしか考えませんし、切羽詰まった感覚は全く持ってません。要するにすべてが実際とは程遠い中で、名ばかりの訓練をしていたんだなということを実感し、色々な点で反省させられる気づきの多い訓練でした。こうした訓練を社内の関係者が数回受けていれば、社内の訓練も少し現実味を帯びたものになり、改善の余地がたくさん出てくることになるのだろうなと考えさせられました。

【2. 第15回定例会内容ダイジェスト報告】

日 時：2015年3月24日（火） 13:30～17:30

場 所：京都大学 東京オフィス

参加者数：29名（講演者を含む）

当日の講演に使用した資料は非公開のものを除き、講演者様のご協力によりレジリエンス協会 HP 内の「定例会」ページに掲載させていただいております（一部ないし割愛版を含む）。

http://www.resilience-japan.org/mail_magazine

<定例会内容>

- (1) 13:30～14:00 『会長講話』 林 春男 氏（京都大学防災研究所）

(広報担当)

- ◇ 今回は「ヒューマン・レジリエンス」に関連する各種の本を紹介いただきました。

- ◇ まず最初に枝廣淳子著「レジリエンスとは何か：何があっても折れないところ、暮らし、地域、社会をつくる」（東洋経済新報社）の紹介がありました。この本はシステム思考や衰退ループ、レジームシフト、環境などいろいろな観点から“レジリエンス”をビューするのにいいのではないかということでした。

- ◇ 次に4月下旬に出版される「レジリエンス ビルディングー “変化に強い” 人と組織の作り方」著者



ピースマインド・イーブ株式会社（英治出版）の紹介がありました。この本ではメンタルヘルス対策＝人材育成となるための総合的な評価についても書かれており、個人レベルを超えた集合レベルの考え方にも焦点が当てられているそうです。いわゆるチェンジ・マネジメントをどうするかを考えるのに、参考になる書だということでした。

- ◇ 他に、「レジリエンスの鍛え方」久世浩司著（実業之日本社）の紹介がありました。これはセリグマンの「ポジティブ心理学」を基本に、レジリエンスの3つのステージと7つの技術について、書かれたものだそうです。

面白い例では、85才までの生存率でみると、「感謝」で生きている人は80%もあるのに対し、ぶつくと暮らしている人の生存率はなんと35%しかない、ということだそうです。

他にも「3C」や「6つのエレメント」等、この本もチェンジ・マネジメントをどうしていくか、と言う点で役に立つ本だということです。

(2) 14:00 ~15:00 『逆境に負けない心を育てるレジリエンス教育』

足立 啓美 氏 (日本ポジティブ教育協会 代表理事)

[講演者抄録]

- 一般社団法人日本ポジティブ教育協会ではポジティブ心理学を教育に応用したプログラムを使用して、教師研修、レジリエンス・トレーナー養成、子供向け講演会、ワークショップ等を行っております。
- ポジティブ心理学とは、私達一人ひとりの人生や、私達の属する組織や社会が繁栄の状態に向かうよう、強みや長所などに注目して、そのような状態を構成する諸要素について科学的に検証・実証を試みる心理学です。
- 人間である以上、病気が治るだけが幸せではなく、治った上で自分らしく他者と温かい関係性を築きながら生きることが重要であると考えています。大震災においても同じではないでしょうか？被災者の方の衣食住が整ったら幸せといえるのでしょうか？それぞれの人が生きがいや他者との交流を通して豊かな人生を築いていくことが必要であると考えます。ですから、ポジティブ教育では、生きていく上での基礎となるレジリエンス教育とともに、自分らしく幸せに生きるためのウェルビーイング教育を行っています。
- この度の講演では、子どものレジリエンスを日々育てるのに必要な要素とその実践報告をいたしました。ストレスも多様化した現代では、日々のストレスは大きくなってきています。また、自然災害などの大きな逆境にといても、学校が復興のシンボルと言われるように学校の果たす役割は大きいと言われています。
- 日々の逆境だけではなく、自然災害を始めとする人生を大きく変えてしまうような逆境時に、教員や子どもをサポートするものとして事前に知っておく必要のあること、また子ども自身が知っておく必要があることも授業に取り入れています。例えば、心的外傷後ストレス障害 (PTSD) の症状、心的外傷後成長 (PTG) を成し遂げた人の話、共感疲労、緊急時に頼れるソーシャルサポートのリストアップ等が含まれます。
- 今後の課題としては学校、地域を巻き込みながらレジリエンス教育を行う必要があること。そして、レジリエンス教育が本当に有効なのか効果測定を進めていくことが挙げられています。



(3) 15:15 ~17:30 『レジリエンスワークショップーネガティブ感情を終わらせる』

深谷 純子 氏 (ヒューマンレジリエンス部会)

[講演者抄録]

- ストレスは誰にでもあり、うまく扱うためのポイントは以下の2つ。
 - ① 自分のネガティブ感情を受け入れる。
 - ② 肯定的な意味づけをして、成長や改善に変える。
- ネガティブ感情を言語化するワークショップを実施
ネガティブ感情は一つではなく、時間とともに変化する。



- ゲシュタルト療法で有名なエンプティチェアを使ったワークショップを実施
ストレスフルな対人関係を再現することで、新たな見方を手に入れます。

17:30 閉会

【3. 次回『第16回定例会』開催のご案内】

日 時：2015年 6月16日(火) 13:30 - 17:00

場 所：京都大学 東京オフィス 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟27階
<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office>

参加費：会員；無料

一般；3,000円 会費は当日、会場受付でお支払下さい。
(お釣りが無い様をお願いします。)

事前登録のお願い：会員の方も一般の方も、参加するには事前登録をお願い致しております。

以下のアドレスにお申込み下さい。領収書が必要な方はその旨お知らせください。当日受付でお渡し致します。

申込登録は ⇒ ykohno@resilience-japan.org



(京大東京オフィスからの眺望)

<プログラム>

- 13:30~14:10 『会長講話』 林 春男：京都大学防災研究所
- 14:10~14:50 『JIS Q22313 (BCMS の手引き)、BIA、サプライチェーンのBCP』
岡部紳一：アニコム損害保険株式会社
- 14:50~15:00 — 休憩 —
- 15:00~15:30 『BCM のための管理会計』 高橋孝治：公認会計士
- 15:30~16:00 『海運業におけるBCP—東日本大震災から「南海トラフ巨大地震への備えとBCPを考える—』
斉藤吉則：株式会社協伸商会
(元 JA 全農東日本地区部長)
- 16:00~16:30 『地区防災計画とBCP—第3回国連防災世界会議のフォーラム参加報告』
石井洋之：静岡大学
- 16:30~17:00 『JIS Q22320 (危機管理) の調査』
爰川知宏：NTTセキュアプラットフォーム研究所
天野明夫：株式会社大成建設
- 17:00 閉会

【4. 南相馬視察日帰りバスツアーのご案内】

- 【開催日】 2015年 5月16日(土) 7時：東京駅八重洲ブックセンター（出発）
- 【費用】 一万縁(円)：往復交通費・昼食代など含む。当日集金いたします。
- 【定員】 15名 (若干名の余裕がございます。ご希望の方はご連絡下さい)
- 【問い合わせ・申し込み】 レジリエンス協会 深谷純子 sfukaya1317@gmail.com まで
氏名、メールアドレス、携帯番号(緊急連絡用)を明記の上、お申込みください。

【5. 会員募集のお知らせ】

◎ 当協会では会員を募集しております。当協会はレジリエンスに関する情報収集、意見交換の場として各業種、団体等の方々にお気軽に参加いただいている会です。レジリエンスにご興味をお持ちの方は、ぜひ一度定例会に参加いただき、会の活動状況等を実際にご確認いただければと思っています。

(参考) 個人会員の年会費は 10,000 円(消費税込)です。年6回程度開催予定の定例会・訓練会等の参加費(1回 3,000 円×6回)が無料となる他、各研究会(チーム)にも自由に参加することができます。

法人会員(100,000円+消費税)もあります。

入会申し込み方法につきましては下記リンク先のページをご参照ください。

http://www.resilience-japan.org/aboutus/application_form

レジリエンス協会 Facebookのご案内

下記の URL でレジリエンス協会の Facebook をご覧いただけます。

<https://www.facebook.com/resiliencercjapan>

どうぞ、お気軽においで下さい。

※ 本メールマガジンは次の方々にお送りしています。

- ① 当協会の会員および会員から紹介のあった方。
- ② 当協会開催のイベントに、申込み・参加された方でメールアドレスをお知らせ頂いた方。
- ③ 当協会の関係者と名刺交換された方で、レジリエンスにご関心があると思われる方。

※ 本メールマガジンにお心当たりがない場合、また講読を中止する場合は、以下までメールにてお知らせください。登録を解除いたします。

[「info@resilience-japan.org」](mailto:info@resilience-japan.org)

※ 本メールマガジンに掲載される記事の著作権は、原則として発行元に帰属します。

引用、転載、雑誌掲載いずれの場合も、本メールマガジンのコンテンツを利用される場合は出典を付記するようお願いいたします。

※ 本メールマガジンに関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

発行元：一般社団法人レジリエンス協会

<http://www.resilience-japan.org/>